

平成 23 年 3 月 30 日

新潟青陵大学 学長殿

平成 22 年度新潟青陵学会共同研究 報告書

1. 研究課題名

高齢慢性病者のセルフケアと家族および身近な人の支援に関する研究

2. 研究組織

代表者: 新潟青陵大学 看護 学科 職名: 教授 氏名: 金子史代 

分担者:

所 属	職 名	氏 名
新潟青陵大学看護学科	教授	金子史代
新潟青陵大学看護学科	助手	倉井佳子
新潟臨港病院看護部	看護師	広瀬ひろみ

3. 研究期間 平成 22 年4月1日 ~ 平成 23 年3月31日

4. 研究成果の概要(当該研究期間のまとめ)

平成22年度は、高齢慢性病者のセルフケアの実際と家族および身近な人の支援について次の3つ研究を報告した。

「外来通院している高齢患者のセルフケア実際」の研究では、65歳以上の慢性腎不全患者と糖尿病患者を対象とした調査を行い、高齢患者のセルフケアは【自律的行為】【生活者としての努力】【気力と生きる張り合い】【家族および身近な人による支援】【社会への参加】に分類されることを明らかにした。

「糖尿病高齢者のセルフケアと関連要因の検討」の研究では、糖尿病高齢者のセルフケアは【自分でできることを自分のやり方で行っている】【身体機能の低下に伴いできなくなることへの不安がある】【自分らしい生活を送る努力をしている】の3グループが関係しており、関連する要因には「心の支えとなる人(主に配偶者)により気力を維持している」「家族への気遣いがある」「配偶者と子供からの生活行動の支援ある」「続けている趣味により人間関係を維持している」「引越し、親しい人の死、身体機能の低下等により社会とのつながりがもてなくなる」の5グループが関係していることがわかった。

「外来通院している高齢患者のセルフケアに関連する家族や身近な人との関係および支援の調査」では、高齢患者は年齢が高くなると家族以外の人との交流の範囲が狭くなる傾向があり、これは身体的機能の低下と関連することが推測された。配偶者との関係では生活役割を通して互いに支え合っており、妻が夫を語る時は食事や身の回りの世話を通して精神的支えが語られていた。また、独居の高齢患者は娘から精神的に支えられ、2人以上の家族では嫁により食事などの援助を受けている。高齢者のセルフケアの維持には、家族環境により、配偶者、息子や嫁、実の娘に求める援助の質が異なる事が表れていた。

今後は、以上3つの研究結果を臨床で活用していくこと、また、高齢者のセルフケア、特に今後人口構造上多くなることが予測される後期高齢者の対象者を増やし、セルフケアを維持するための看護の役割について家族や身近な人との関係および支援の内容について明らかにしていきたい。

尚、平成20年度報告書に発表予定と記載しました日本看護研究学会雑誌「看護師が認識する高齢者のセルフケアとセルフケアに関連する要因」は平成23年4月20日発行の34巻1号に掲載されます。

5. 交付決定額(配分額) 300,000 円

6. 研究発表

区分	学会誌名・学会名等	発表者	論文名・演題名等	年	月
発表	日本看護学会 老年看護	金子史代・広瀬ひろみ	外来通院している高齢患者のセルフケア実際	平成22	9
発表	日本糖尿病教育・看護学会	金子史代・広瀬ひろみ	糖尿病高齢者のセルフケアと関連要因の検討	平成22	10
発表	新潟青陵学会	広瀬ひろみ・倉井佳子・金子史代	外来通院している高齢患者のセルフケアに関連する家族や身近な人との関係および支援の調査	平成22	11